

麻酔の安全とヒューマンファクターズ

Human Factors for Patient Safety in Anesthesia Practice

*萬家 俊博¹

*TOSHIHIRO YOROZUYA¹

1. 愛媛大学医学部附属病院

1. Ehime University Hospital

麻酔科学は、患者にとって痛みや恐怖を伴う侵襲的な手術や検査を行う上で、患者の苦痛を除去する目的に加えて、その特殊な状況下にある患者の安全を守るという目的を遂行するために発達してきた学問である。安全で有効性の高い麻酔関連薬の開発、生体情報モニターの発達、種々の気道確保器具の登場、より低侵襲な手術方法の開発などにより、手術や麻酔を受ける患者の安全性は格段に高まってきた。しかし、麻酔や手術に関連したインシデントが発生した場合、患者の生命を脅かす危険性が極めて高くなることが多いのも現実である。

このインシデントを重篤化させる要因には、単なる技能の未熟さだけではなく、人的要因（ヒューマンファクターズ）が大きく関与している。麻酔科医としての修練を積んで、十分な知識や経験が備わっているにもかかわらず、その場の状況に応じた対処ができない事態に遭遇する可能性がある。想定外の危機的事態が発生した時、「こんなはずではなかった」との思いにとらわれ、状況の重大性や緊急性に気づかずに対応が遅れてしまうことがある。その背景には、人間の認知能力の限界、極端な時間的プレッシャー、体調不良、環境や機器に対する不慣れといったインターフェイスの問題が大きく影響している。このようなヒューマンファクターズは産業界の労働安全管理の観点で研究され、医療安全管理がその追随をしてきた歴史がある。

このレクチャーでは、若手麻酔科医を対象に、ヒューマンエラーに起因するインシデントの分析をもとにシステムを改善していく手法や困難な状況でもうまく対処できる柔軟な能力という意味のレジリエンス・エンジニアリングを医療安全に応用していく手法などを紹介し、麻酔の安全管理に役立つ医療安全管理の歴史と理論を概説する予定である。